

2020年5月14日

令和2年度 認定・特定非営利活動法人UNE 事業計画書

I 理 念

認定・特定非営利活動法人UNEは、農園芸作業などを通じ、長岡市及び周辺在住の障がい者、高齢者が人間らしく、誇りを持って自立して生活することを支援します。そして、一生安心して暮らせる社会の構築を目指すと共に、その社会の活性化を図る。

II 方 針

1. 本年度の重点項目は以下の通り

- ボランティア利用者の登録数の増員(現在の12名より6人増員を目指す)
- グループホームの設置(年末までに具体的設計を立てる 想定利用者6人、施設整備)
- 特例子会社の誘致
- 全部門売上げ10%のアップと経費5%の節減(部門担当者の収支把握の徹底)
※新型コロナ・ウイルス禍の影響があるので、影響のない部門のみの努力目標とする。
- 事業の見える化の取り組み(業務予定、日報、加工事業へのHACCPの導入等)
- 地域おこし協力隊員の募集
- 新たに開業する 道の駅 はなび館への出店
- 情報発信の専門職員の募集(障害者雇用)
- かき氷プロジェクト

2. 補助、助成事業

- 農山漁村進行交付金農福連携人材育成支援事業(補助額400万円)
- 新潟県共同募金会及び長岡市社会福祉協議会
- ジャンピア事業への応募(NPO支援機構 休眠口座活用団体)

3. 総務、労務

- 若手職員の給与のベースアップ(5%~10%)
- 労働環境の整備(照明、エアコン、作業着等)
- 賛助会員の増員(会員数10%のアップ)現在138人から150人を目指す。
- 有給休暇の適正取得の徹底
- 年間、月間、週間計画表の作成

4. その他

➤ 壱九零八邸の整備

活用方法を策定し、その整備をボランティアを募ってイベント形式で計画的行う。

➤ 連携協働

UNEの活動の拡大を図るためには、他の団体との連携が必要不可欠となった。ボランティアやイベント、給食参加者そして賛助会員の確保のためにも以下の市内のNPOとの連携を図るべく、今後コンタクトを取りたい。

例えば、はなび館のイベント広場へのテント(5m×6m 出店料 7千円、1万円)の出店を計画しているが、UNE 単独では運営しきれないので協同運営を目指して連携する必要がある。対象NPOは以下の12団体を予定している。

- ① 希望の会福祉会
- ② とちの木
- ③ 新潟マック
- ④ 虹の家
- ⑤ 春よこい
- ⑥ ピュアはーと
- ⑦ 夢ハウスけやきの家
- ⑧ 心と體いきいき塾
- ⑨ 長岡医療と福祉の里ボランティア連合会
- ⑩ 市民協働ネットワーク長岡
- ⑪ すまいるらいふサポート
- ⑫ 多世代交流館になニ～ナ

5. 事業計画 ※()の氏名は担当者

① 地域活動支援センターUNEHAUS 運営事業(家老、井口)

✚ 障がい者、高齢者、生活保護、生活困窮者そして子ども等の所謂「社会的弱者」の「しごとづくり・生甲斐づくり・居場所づくり」を通して、地域の活性化・持続可能な地域づくりに向けた事業を推進する。

✚ これまで同様、1日平均8.5人の障がい者の利用を目指すと共に、ひきこもりの障がい者への電話、訪問事業を併せて実施する。

✚ 障がい者、ひきこもり者、生活困窮者を対象とした就農訓練プログラムを農園芸ジョブトレーナー事業で育成する人材と協働して農福連携の現場環境の整備に努める。

- ✚ 大企業の障がい者雇用に特化した特例子会社の誘致活動を、これまで同様積極的に行う。障がい者雇用率未達成の企業を中心に募集する。また、特例子会社誘致と並行して、空き家等を利用した障がい者の生活支援であるグループホームの開設のための空家探しとその整備、利用者の募集を開始する。
- ✚ 農福医連携の具体的な実施について関係機関に提案すると同時に、新しい法人形態：農業法人＋福祉法人＝農福法人のモデルとなるような組織の立ち上げについて検討する。

2. 農業生産・加工事業及び販売

①米(田中、武田)

- ✚ コメの品質向上に努める。そのため計画的な管理作業を実施する。
- ✚ 少雪暖冬で春先の水不足も予想されるので、4月上旬より棚田に入り、水管理、代掻きなどを実施する。
- ✚ 農林1号を新たに1反作付けし、どぶろくの掛米として使うと共に飯米(旨い米)とし販売する。
- ✚ 大正餅は餅及びぬれせんべいの原料として全量利用・販売可能なので、面積を拡大し、管理を徹底し、反収 5 俵と合計50俵の生産を目標にする。
→ 今年度は6反の作付けを行う。反収 4.5 俵(令和1年度建石実績)を目指す。
- ✚ 旨い米コンテスト入賞を目指す。
→ 従来コシ、農林1号の出品を想定。国際コンテストは敷居が高いと想定される。静岡、大阪のコンテストは白米での出品、整粒歩合の審査が無いので検討する

② 畑(齋藤、武田)

- ✚ 福祉市民体験農園「Oasis R」を主体とし利用者の募集に努める。(20区画の分譲)
- ✚ 周辺マンションへのチラシ配布
- ✚ 福祉農園では管理作業の少ない野菜を、販売先をきちんと想定した作付けを計画する。
- ✚ 水・洪水に強い作物を選定し作付けする。(ヨモギの栽培など)
- ✚ 社会福祉協議会栃尾支所の配食サービスの材料をUNEHAUS周辺の畑で栽培する。

③ 加工(納谷、小林)

- ✚ クロモジのアイテムは、売り先が増えたお陰で生産が追い付かない場合があり、納品の時間は10日ほど頂くようお願いをしてあるが、その期間をなるべく短くしたい。小林さんを中心に計画的にクロモジの仕事を構築し、曜日ごとに仕事を当て込み、ルーティンで回せるよう今年度取り組む。

- ✚ 人員の増員、器械化(細断器)の導入の検討。
- ✚ 作業服、粘着テープを導入して日々のクレンリネスを向上させる他、作業後の清掃や作業場の清掃を上記の仕事に組み入れ行う。
- ✚ 作業日報等の記入を徹底し、HCCP の概念を導入する。
- ✚ 梅干しについては製造量を増やし、紫蘇を自家栽培で賄う。加工場の整理整頓と漬け樽の統一を進め貯蔵スペースを確保する。

④ 大正餅(納谷)

- ✚ 大正餅については、昨年度の反省を含め委託先の変更を行う。(越路の神谷生産組合に委託)
- ✚ 売り先については昨年同様、直販、ネット、ぼんしゅ館、直送計画、ふるさと納税返礼品で展開する他新規展開として「ポケットマルシェ」、「なじらーて美沢店」、「道の駅はなび館」に出品し昨年度の倍程度の販売数を目標にする(790→1,600 袋)
- ✚ 賞味期限が半年ほどで設定できるので、早めの受注受付を行う(11 月初旬開始)

3. 農業サービス事業

①クロモジ採取(齋藤、武田)

- ✚ これまで収穫した場所の地図を作成して今後計画的に採取を進めるようにする。
- ✚ 昨年の出荷量(収穫量)は2tであった。今年は昨年同様2tを目指したい。

② 笹(齋藤、武田)

昨年は自家用の笹の採取のみ2000枚であったが、今年はしっかり計画して3万枚を目指したい。

③ ヨモギ(小林・家老)

- ✚ 昨年よりの面積を約 5 倍の 37aに増やした。反の売上げ 20 万円、出荷量1tを目指す。出荷先は JA 越後ながおか→ミヤトウ野草研究所
- ✚ 栽培管理、収穫、そして調整作業については、経験、知識などあまり必要ないので、利用者が取り組む作物としては適していると思う。出荷先が全量購入してくれるということであれば、拡大するのもいいのではないかと思う。

④ 花ハス(小林、家老)

直売を中心に市内の花店、そして個人に販売する。また、乾燥蓮台の製造、販売に取り組む。

4. 障がい者の仕事となりうる各種請負事業(田中、武田)

- ✚ 春先のベンチのペンキ塗りは新年度中止になったので、それに代わる作業を検討しなければならない。
- ✚ 街路の草取り、選定作業については今の人員ではなかなか対応できないので、ボランティアの増員を図らなければならない。

5. 農村と都市との交流事業 イベント(家老、納谷)

年間計画、そして担当者をしっかり立て、最少催行人員を10名と定め募集活動を徹底して、イベントを実施する。イベント保険の加入も励行する。イベントの見直しを行う。

6. 地域活性化事業(納谷、家老)

- ✚ 北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会が実施する農林水産省補助事業「農山漁村振興交付金事業」を活用し、地域の課題を取り纏めその解決方法について話し合い、それを直ちに実践する。
- ✚ 資源回収は引き取り価格の低迷、奨励金の4割減額のため5月の実施を最後に中止する。
- ✚ 地域おこし協力隊員と協働して地域の活性化を図る。(新規で2名の協力隊を申請中)
- ✚ 北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会を中心とした地域の連携、そして行政、組織・団体等と連携して地域の活性化・維持に努める。

7. 農村からの情報発信事業(家老、納谷)

- ✚ 地域住民を対象とした講座:障がい者支援、6次産業化、グリーンツーリズム、農泊、市民福祉農園、どぶろく、手工芸を開催し、地域住民からもUNE及び「北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会」の活動について理解、協力を求める。
- ✚ 月1回の地域の会報「うね日和」にUNEのイベントや活動を掲載すると同時にこれまでの様式、内容等の見直しを行う。ラクスルなどのネット印刷を活用し紙面の質の向上を図る。
- ✚ ホームページのデザインなど改良を図る。
- ✚ Facebookを活用して情報発信する。
- ✚ 各種講演会へ講師として参加する
- ✚ 視察見学等の受け入れを積極的に行う。その際の受け入れ条件等について整理する。

8. 飲食事業

① 給食(荒木、井口)

- ✚ メニューがパターン化してしまい地元の方々には新鮮さが薄れているので、利用者が減った感がある。新メニュー目玉メニューを考え、その点を強調して利用者増に努めたい。
- ✚ 昼食後のアフターメニュー、デザート、喫茶、そしてカラオケ、映写会、地域散策等を考え、特に地域外からの客に対しての満足度を向上するようメニュー作りを行う。
- ✚ 調理師の後継者を見出すよう努める。
- ✚ 高齢者施設の利用者の受入プログラムを作成

② かき氷プロジェクト(家老・小林)

与板SAKATA製作所、振興局、JA 越後ながおか等と相談し、まずはスポットで販売してみる。シロップ等の開発を行い、検証した中でキッチンカーの導入、販売も視野に入れたい。

9. 送迎事業(家老、小林)

運転手の確保、新車の導入等について検討する。各助成制度に応募し活用を図る。

10. 人材派遣事業(家老)

昨年度に引き続き「北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会」の事務局を務めると同時に、代表理事を事務局長として派遣する。

11. 農家民宿事業(納谷、小林)

- ✚ 長岡祭りが中止となり、見込んでいた売上が難しい状況になった。その他、新型コロナ・ウイルスの影響により当面はKS☆HAUSも含めた宿泊予約は見込めそうもない。
- ✚ イベントを付加した宿泊企画も計画したが、上記と同様中止となった。
→東京農大グリーンアカデミーの生徒向け、山菜、キノコ狩りの2回企画
各回10名定員で2.2万円、合計で44万円の計画だった。
- ✚ 各宿泊施設への来訪動機の創出を行い利用率の向上を目指す。
→サイクリストへの提案、かき氷の名物化等
- ✚ 旧三本邸 壱九零八邸の活用検討を行い、2021年度の開業を目指す。
→長岡造形大との協働、下記地域おこし協力隊の活用

12. どぶろくの製造及び酒類の販売

① どぶろく(齋藤)

- ✚ 亀ノ尾、農林 22 号、農林 1 号、そしてコシヒカリを掛米として 4 種類のどぶろくを製造しセット販売をする。なお、新たに製造するものについては、蒸米を主体としたものとする。
- ✚ 製造量1,000lを目指して販売促進に取り組む。
- ✚ 試飲会開催を通して友の会の会員拡大に努める

② ワイン(家老、納谷)

販売がドイツフェストのみとなっているので、UNE 主催のイベントも企画し、ワイン友の会等の結成も計画する。

13. その他事業

◎地域おこし協力隊、旧三本邸の活用(納谷、家老)

- ✚ 旧三本邸について、地域おこし協力隊の制度を活用し人材を確保する。
- ✚ 旧三本邸については宿泊施設とその他の事業(かき氷&パン屋を想定)を行う事で一之貝への来訪動機になるような仕掛けに磨き上げる。
- ✚ リノベーション等は造形大と協働しながら行い極力支出を抑える。
- ✚ クラウドファンディングで資金を捻出する。
- ✚ 地域おこし協力隊への申請を行い9月位には迎え入れを行いたい。
- ✚ →募集については東京の NPO 法人「ふるさと回帰支援センター」の嵩副事務局長に相談しながら良い人材を広く募集する。

以上